

厳寒仕様スーパー段底

特集

生井澤聡 in 富里乃堰 -7.5℃…。冬眠状態のへらを揺り起こす、驚異の21尺チャカ段底!
内田耕一 in 筑波湖 難攻不落、真冬の巨べら狩り! “鉄壁の守り”が信じられない爆釣を!?

2 野田幸手園 新春お年玉釣り大会

27 《新連載》戸張 誠 関べら戦記
《第1回》1月例会 極寒の横利根川

32 名手・石井旭舟がいく、へら崩出合い旅… へらぶな浪漫街道
《第三十八回》福島、氷の世界。

38 《新連載》小池忠教 K'S FORM & STYLE
《Vol.2》ウドンセットのスタイル 清遊湖

44 《新連載》中澤 岳 フィールド真っ向勝負
《Vol.3》厳冬の将監

51 《新連載》杉山達也のSUPER SPLASH!
《ROUND.3》鬼東沼:厳寒爆釣! パラグル底

56 伊藤さとし 厳寒期の管理池を「将麟® へら
スーパープロ」で繊細に釣り込む!!

★AREA REPORT

58,66	弁天FC&吉川HC&上尾園	本誌・伊藤洋一
60,68	河北潟(石川県)	山本一朗
61,69	佐屋川温泉前寄せ場(愛知県)	後藤 誠
62,70	FC竹之内(大阪府)	前田誠志
63,71	頼田公園の池(福岡県)	河口正伸

134 竹とともに生きる。
《第29回》二代目「こま鳥」 山上寛恭

139 《新連載》棚網 久の我流
《第二回》吉羽園の大型べらを段底で狙う!

147 《新連載》田辺哲男&小林恭之の問答無用へらツアー
《Vol.3》真冬の畏…。柳生F.P月例会!

152 《新連載》稲毛利夫 野釣り場地獄巡り
《第3回》恐るべし「オデコバンザイ!」コンビ (渡良瀬川上り?)

156 《新連載》吉川ひとみのあっち こっち そっち♡
《Vol.2》ひとピー、真冬の清遊湖で歴史的敗北!?
ショップ:つり吉 江戸川店&綾瀬本店

193 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.29》【厳寒新べら攻略】 筑波白水湖(茨城県)

198 釣果予想クイズ

200 《新連載》北川穂積 西の交友録
《第3回》ゲスト:出雲氏、下野氏 釣り場:水藻FC(大阪府)

208 フィッシングレディ
《今月のレディ》石川果奈さん 隼人大池

p.203~

2カ月連続お年玉!?

新春特大
プレゼント

釣り場割引 クーポン券

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼 隼人大池
上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
将監 柳生FP 筑波白水湖
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖
水藻FC 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC
川越FC 府中HC 当麻池
多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池
田島池 霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
三名湖・舟宿 光月
千代田湖・舟宿 千和

p.165~



▶今月の表紙
angler: 内田耕一
field: 筑波湖
photo: 本誌・里
layout: 本誌・里

へら鮒

3月号

Mar.2006 No.483

73 農林水産大臣杯争奪 日研全国一決定戦 横利根川

74 鬼東沼 新春釣り大会

75 喜楽 「魚集英雄作」展を開催

76 へら鮒釣り 超基本講座
《第15回》竿いっぱい宙釣りの超基本

81 《新連載》ガチンコ道場
《第3回》ガチンコメンバー、新春大会で大暴れ!?

88 《新連載》カリスマ伝説
《Vol.3》全面凍結の小見川&小見川向地を狙え

92 《新連載》石川裕治が伝説する王者の法則
《第3回》段差の底釣り 武蔵の池

99 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.45》氷結セットin椎の木湖

106 《新連載》すずめつつ へら鮒調査隊! 天野正由
《調査ファイル03》初釣りを楽しんできてちょうだい。弁天FC&相模川・猿ヶ島

110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「人体実験」

116 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ
《第三十七話》新春特別SP!! 「乗込みまで待てない。
ダム王・松村則朗登場!! その極意を聞け!」 前編

119 《新連載》へら鮒ブログ 西田清明
《第3回》「初!初!初づくめ」の巻

122 母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ! 南元彦
《第11回》題迷!?

126 野田幸手園新聞

162 ワクワク管理釣り場情報

171 小売店情報

★へら鮒BOX

177 里ちゃんの新米編集長雑記

178 情報発信基地

181 ボイス

186 《最終回》コラム『へら狂おやじと呼ばないで』白石和弘

187 コラム『日研だより』日研広報部長・遠藤克己

188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト

189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』中塚伸行

190 プレゼント発表

191 広告索引

192 編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！→いよいよ再発進！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.45〉

氷結セット

in 椎の木湖

1月12日、意気揚々と乗り込んだ椎の木湖が、江成アニキの初釣りとなった。そこには、氷結した水面と、手強い大型が待ち構えていた。オカメまで飛び出し、「えな理論」全開で突っ走るが…。ちなみに、「氷結セット」とは、「氷結果汁」に引っかけた、ただのダジャレである。 by 里ちん



激シブ上等！

僕の今年の初釣りは、椎の木湖。そしてそれが取材。里ちんの情報ではかなりシブいらしい。下ハリスがメーター前後のセット釣りで、浅いタナは相当な覚悟が要とのこと。このハナシを聞いた僕は正直あまり気が乗らなかつた。昨年の古川君との横利根以来？カ月弱の空白と、昨年末の殺人的な忙しさは、僕の釣りへの意欲を削ぐのに十分だった。

年が明け、仕事はそれまでが幻だったかのようにすっかりヒマになった。異動以来、ゆっくり見てまわることもなかった職場の近所を、連日休憩時間に散歩している。ゆっくりメシを食う時間がほとんどなかった僕にとって、職場のまわりの飲食店にはほとんど入ったことがなかったので、今さらながらラーメン激戦区であることを知る。どの店も「ウマー」で、ラーメン好きの僕にはたまらない。

満腹になった僕は、腹をさすりながら食後の散歩。ぼんやり歩いていたら、職場から近い野池にいた。釣り人は2人。兩人ともノービックだったが、久し振りに眺めたウキは、僕のやる気を再燃させるには十分なエネルギーとなった。

1月12日、取材当日の朝。里ちんから直近の情報を聞くと、最初のハナシよりウキは動かしにくい。普通はここで喜ぶべきだが、激シブをイメージしてテーマを考えてきた僕にとっては「ちえっ」という感じだった。今年ハトーナメントフル参戦を予定している。毎月の取材テーマに於いても、月例会に参戦しないのであれば、浅タナセットの練習をすべきと心に誓った。「やめとけ」という釣り方である浅タナで、それなりの地合を掴んで里ちんのハナをあかしてやるつもりでいたのだ。

結氷。

棧橋に出ると、氷に覆われた水面に驚く。関東に住む僕には滅多に見られない光景だ。氷が張るといことは、とても冷えたのは事実だが、氷が攪拌されずに穏やかな朝を迎えた証拠でもある。氷が張る時は水温が安定しており、意外なほど好釣果に恵まれることも多いと聞いている。

冷たい水は重いいため、底にまわると釣れなくなるがよく言われる。いや、釣れなくなるというよりへらが底に付かなくなってしまうのだ。その場合、どうしても底釣りで釣りたいければ、冷たい層より浅い水深の場所を探して釣ることになる。真冬とは呼べないシーズンで、前の晩に冷たい風が吹き荒れ、おもしろい冷え込んだ朝は、こういってたケースになりやすい。「本当にこんなところで釣れるんかいな？」と心配になるほど浅いところが良かったりする。

冷たい水は重いと言っても、水は4℃で一番重いというのは学校で習った。つまり最深部の底にある水が4℃だから、今回のように結氷した表面付近(10℃)よりは水温が高い。真冬といえば底釣りというイメージがあるが、「最も水温が高いからへらがが多い」のだろうか。僕にはいまだにこのへんがよく分からない。居るには居ても、覆ってしまっているようなイメージがある。水の動きが弱く、水温も安定しているために、活性の低いへらが越冬のために集まっているような気もするのだ。

へらの行動パターンを決定付けるものとして水温が大きな要素になるのは間違いないが、それだけではない。今回の取材時は、棧橋の下を覗き込めば解け始め流れ出した氷の下に

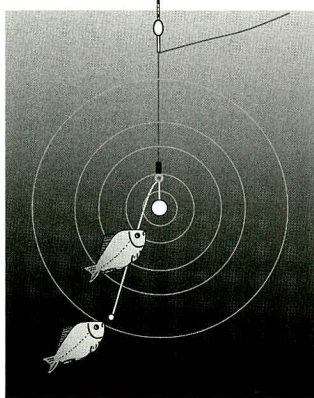
大量のへらが泳いでいたし、平場の底釣りは不調の中、渡り棧橋際だけは別世界であった。安全地帯を水温より優先するのは「習性」と言ってもいいのかもしれない。そして、安全地帯を知るのには「学習」である。メーター規定の池なら1m以浅も安全地帯だし、規定の有無にかかわらず、へらはエサが上から落ちてくるのを「学習」によって知っている。いまや真冬の浅いタナ狙いは珍しくもなんともないが、それが、風が出るまで浅いタナを打った僕の根拠である。

完全崩壊した「距離感」。

「浅いタナでも釣れないことはない」、「ハリスも常識的な長さでOK」と言われても、僕は最初から85cmの下ハリスを結んだ。実際は状態は自分で釣ってみなければ分からない。アンテナを詰めるのは簡単だが、伸ばすのは面倒臭い。入りは長めが無難。これは昨年やつと僕の身に付いたことだ。そして、底釣りゼミ2005で導き出された「仕掛けがたるんでいてもアタリはけっこう出る」ということも、僕に完全に身に付いていたため、「釣れそうないない」という最悪のスタートを避けることが出来た。自他ともに認める「超・短バリサー」としては考えられない変化である。

セット釣りのメカニズムを説明する際、よく使われるのがバラケを中心とした円の模式図だ。実際はこういう円ではないと断りながらも、僕も過去の記事中に使っている。ナジみ切った状態でのセット地合ならばまだ通じる図であっても、真上もしくはやや上からの抜きセットには通じない。が、とりあえず基本ではあると思う。今回の地合が、抜きセットになるとは思っていなかった僕だが、85cm

のハリスに合わせるバラケとして、とりあえず縮まったバラケを組み合わせる気にはならなかったのも、図のおかげである。エサ打ち開始後、しばうしてからへらの気配は始まったが、なかなか落とさない。もっと寄せれば飛びつき始める可能性を探るため、エサをさらに大きく、どんどんアマクしていく。これでサワリが切れるようならハリスをさらに伸ばせば良い。大きくなったバラケの拡散範囲に合わせ、クワセの位置(距離)をスライドしてやるという理屈だ。もちろん



模式図から得られる。水中に提供する粒子の量が増加した結果、へらが「おなかいっぱい(粒子酔い)」になる可能性もあるし、抜くタイミングを間違えればウフズるだけで釣りにならない。しかし、これはやってみなければ何とも言えない部分だ。「今年の傾向」や「池のクセ」というようなガイドラインはあっても、地合の付き方はその日その時で千変万化する。…結果としては、ハリスを伸ばさずに釣れ始めた。が、ここで今までの僕が多用してきた、セットの模式図から導けるもう一

つの対応についても考えておきたい。

セットを距離ベースで考えた場合、ハリスを伸ばすかわりにバラケをシメるという逆方向の手もある。寄りさえ保てるのであれば、以前ならこれでアタリが出始める「善」であった。ガッチリとナジませ、タナで反応するケースでは現在でも効く手だが、落ち込み気味のセットでは通じない可能性が高い。そのメカを整理しておく。へらの追いを考えた結果、ほとんどオモリを背負わない小ウキを手ヨイスしている釣りが大半な現在。落下中というヒットゾーンを重視すれば当然のチョイスだが、もう少し突っ込んだ「オモリに引っ張られるのではなく「エサ先行」に限り無く近付けるため」という認識なしに流行だけを選択している、「縮まったバラケがオモリになる」という盲点に気付けない。「ウキから下が全部ハリスだと考える」抜きセットも、ゼロナジミだからこそ可能な考え方であって、バラケがキチンと持つようになったら、「ハリスはオモリ(バラケ含む)から下」になってしまうのだ。例えば僕のセッティングでは、抜きセットならハリスは185cmとして機能し、バラケをシメればハリスは85cmとして機能するということ。つまり距離を稼いだつもり「シメ」という措置が、実はハリスを詰めてしまうのと同じことになるのだ。

たった今、「距離」を稼いだつもりが「ハリス」を詰める」と書いたが、『距離』で統一しなかった理由はお分かりいただけると思っている。バラケという「起点」となるべき位置が変わるため、単純に比較出来ないのだ。もっと言えば、「ゼロナジミにおける距離って何？」ということになってくる。いや、抜き始めるタイミングを間違えれば釣りにならないことを考えれば、抜き直前までバラケは付いているわけで、厳密に言えば抜きセットにも距離感というものはあるだろう。経験したことはな

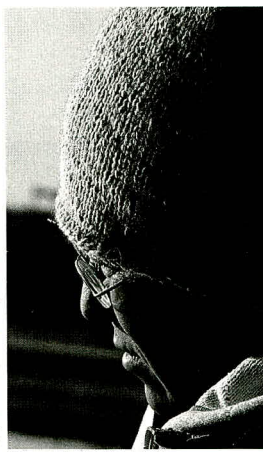


ニット帽で決めてきた江成。さすがにレインボーではなかった。ちなみにこの日、午後には爆釣した里は、全体2位釣果で椎の木湖のホームページに載った(イエーイ)。しかし、本文中でそのことには一切触れない、負けず嫌いなアニキなのであった(ケチッ!)



相変わらず「チャンポン」な江成。ヘライズムにも触手を伸ばそうとしているとか。ちなみに、「性格はチャランポラン」だそう…(サムッ!)

初釣りの椎の木湖で「えな理論」全開のアニキ。今年も「コッテリ」します♡



いが、アマアマのゼロナジミと2mのハリス(ウキ下3m)で「遠巻き」のへらを狙うというのもアリなのかもしれない。

従来のセットの模式図でイーグルを語って見たが、正直言って無理があるという思いは拭えない。「抜く直前までバラケはある」というのが苦しい。縮まったバラケでも水面に触れた瞬間からチリチリとバラけては行くが、抜きセットとはレベルが違う。「抜け切る」までハリについてはいても、それ以前から激しくバラけているのだ。クワセがバラケの煙幕の真っ只中で食われているケースもあると考えると、やはり「従来のセットにおける距離感」は、なかりつつあると言えるのかもしれない。今回、85cmのハリスを詰めたくなるような糸ズレやカラツンはほとんどなかった。激しいバラケが程良くへらを遠巻きにし、適当なスペースが生まれたと片付けたかったのだが、こんな状況下でも上バリを何度も食われ、僕は頭を抱えてしまった。

バラケを食われたのは僕だけではない。里ちゃんもさんざん食われていた。にもかかわらず、下ハリスを伸ばそうかどうしようかと悩む里ちゃん。ひと昔前なら考えられない会話か二人の間にあった。しかしそれが、現在のセットなのだ。

氷結セット 生絞り

里ちゃんの釣りを見る。8尺チョーチンのセット。振り込みから見ていると、着水と同時に水面から尾を引きつつ激しくバラけていく。透明度が高い。浅いタナは終わっちゃうかなあ、と感じつつ、ウキの動きも追う。バラケの重さが一瞬かかったかな?という程度のナジミで、ウキはすぐに戻してくる。そしてここからがヒットゾーンである下ハリスの倒

れ込み。この段階ではエサ落ち目盛り目盛り若干余分に出ている。落下中もしくはへらに煽られていることで、100パーセントではないものの、下バリとクワセの目方が消えているのだ。この位置でのサワリ、というウキを、里ちゃんは注視。もちろん僕も。なるほど気配はある。モジモジと今にも落としそうだったのが、タイムアウト。やがて下バリ分のナジミを示してウキは沈黙した。

「さっきからこんな感じなんです。いい時はちゃんと落とすんですけど…入りが早いと思うんですね。手持ちのクワセで一番軽い感嘆を使ってるんで、もうハリス伸ばすしかないですね」

僕も里ちゃんと同じような感じでイマイチだった。タナ以外のセッティングやエサは、ほぼ一緒である。感嘆より軽いクワセがあればハリスを伸ばさずとも釣れるかもしれない。多分ないとは思ったが、僕はバッグの底を探った。探したのは最近あまり聞かない「オカユ」。昔、僕は等々力で「オカユのセット」をさんざんやった。僕らが「漂い系」と呼んでいたオカユ地合は、今思えば抜きセットと共

通する部分が多い。「クワセへのウケを重視する」のはそのまんまだ。ゼロナジミでこそなかったが、軽いクワセに同調させるようサスバンドなバラケをイメージした。ぶら下がっているからの釣りはないという認識も、僕らにはあったのだ。

当時よく使ったのが「バラケG」。シメた直後の吸水加減が気に入っていた。浮き過ぎても困るからだ。粒子の荒さについては、厳寒のへらの口を開けさせるには適当な感じを受けた。…そういえばちょうど「ぶまつげん」のモニターになった頃からオカユセットはやらなくなったかもしれない。ハリスの張りを求めてウドンオンリーになっていた。インスタントウドンの「即」は、エサの軽さから来るアタリの弱さがどうしても気に入らず、僕はあくまでも緊急用として持ち歩くだけで、例会では使う気になれなかった。それだけへらが濃い時代に僕はいたということになるのだろう。ちなみに、今で言う「粒」的な荒さには気づけなかったが、ウドンには重くて抜ける「バクダン」をよく合わせた。懐かしい思い出である…



残念ながらバッグにオカメは入っていないな。だいたい、あったとしても何年前のオカメなの？という問題もあったが、諦め切れない僕はしつこく引っ掻き回した。僕のデカバッグはドラえもん四次元ポケット。何でも入っている。いや、何かありそうな気にさせるデカさなのだ。

「オカメおかゆオカメ……ん？オカ……メ？」
一発ミク口を発見。どう見ても軽いじゃないか！

この瞬間、僕は今月の原稿のテーマをひとつ見つけた。冬のクワセとしてはあまり聞かないオカメだが、僕がいつも書いているようにバラケの粒子に反応して初めてセットが成立するわけだから、オカメを食わない苦はない。へらが反応して吸いあおっている粒子もオカメもお謎なのだ。やるっきゃない。

冬にオカメを全く使わないかと言えば、そんなこともない。オカメドボンは冬でもやる人がいるし、浅いタナのクワセとしては、「自宅で煮て持参すると良い」というのを聞いたことがある人もいるだろう。煮ると比重がつき、鍋の底に沈むようになる。しかし、今日の釣りに重さは要らない。「ナマ」でいいのだ。いや、活性が高く魚のアオリが大きい夏場でこそ、煮るべきではないのだろうか。

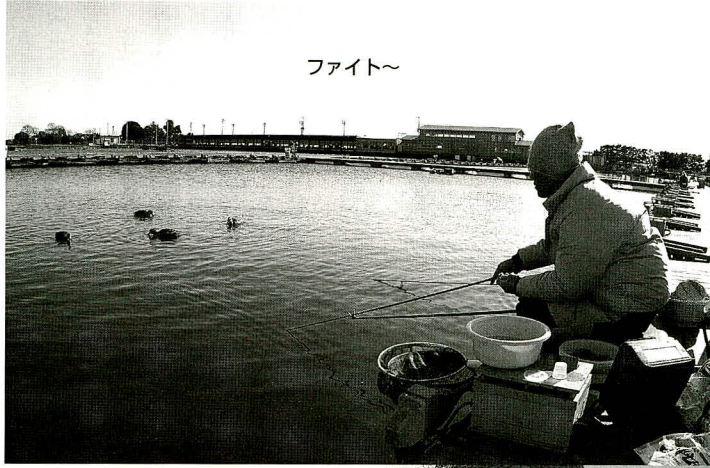
タモにオカメを適量放り込み、サツと水にくぐらす。しばらく時間を置いて、軽く絞る。「生絞り」の準備完了だ。隣の里ちゃんはまだ気付いていない。早く釣って驚かせたいが、なかなか釣れない。糸ズレというかサワリはある。

「やっば冬はダメなわけ？」

軽過ぎるクワセはやはりアタリが出ないのか。ハリスも長いし、食って走するような活性がなければ有効ではないのだろうか？ いや、夏場でオカメの名手はそんなアタリばかり取ってはいない。それとも、口当たり(?)に

何か問題でもあるのか。最初の1枚が釣れるまでは不安があった。

オカメ第1号は「消し込み」で、乗っけてきた。これで「オカメは食わない」ことはないかと確認。そしてやはりアタリが出ていない可能性も認識。だが、ハリスを詰めなくていいように、感嘆からオカメに換えたのだから、ハリスワークはナンセンス。落とし込みの際、下ハリスだけ振り切りになるように置いてみる。これで、いくらウケがハッキリしてきたように感じたが、アタリにはならない。今度バラケをいじってみる。バッグから取り出したのはバラケG。それまで使っていたバラケをやや戻し、かなりの量を投入する……



「アニキ、どうしちゃったんですか？ バクバクじゃないですか？」

「内緒」
「教えて下さいよ〜！」
「しょうがねえな〜」
やはり感嘆には感嘆の、オカメにはオカメのバラケがあるようだ。僕は、感嘆でイマイチなバラケがオカメにドンピシャになると思っていたのだが、甘かった。重さが違い過ぎたのかもしれない。

*「オカメ」は、今はなきエサメーカー「ふまつげん」の商品名だが、ソニーのウォークマンと同じで代名詞になっていると僕は感じているので、いちいち角麩とは書かなかった。

四季のへら鮎釣りを楽しむなら

自然美溢れるダイナミックな釣趣！

と づ ら は ら

戸面原ダム

料金	ボート 1日3000円	定休日	毎週木曜日
営業時間	5月~8月 AM5:30~PM4:30	9月~10月 AM6:00~PM4:00	11月~2月 AM6:30~PM3:30
	3月~4月 AM6:00~PM4:00		

★ 戸面原ポートセンター 千葉県富津市豊岡2874-1

図中の数字は外貨輸交差点からの距離(国道127号線経由)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの釣会
- 2.ぐりへの釣会
- 3.ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

逆襲。

ノーガキたっぷり、いい気分です。屋敷から帰ってきた僕だったが、再開後に出た風の前に撃沈。ウキがシモって釣りにならない。かわって里ちゃんのチョーチンが火を吹きはじめた。「里ちゃんさ、冗談抜きでよく釣るよね…」
「アニキの隣だと釣れるんですよね。リラックスしてるせいですかね？」

この男、本当によく釣るようになった。「ああ、これは釣れるな」というのがウキではなく、背中を見ていても伝わってくる。里ちゃんがいつも書いていたスーパースターの「オーラ」は、彼自身すでに持ち合わせているのだ。僕の記事以外では滅多に竿を出さないという里ちゃん。たしかに別の取材よりはリラックスクスしているのかもしれないが、「それなりに」気を遣ってられているのはよく分かる。僕なら釣りにならない。
仕方なく僕もチョーチンに変更。「種先で止められるんだし」と、最初は浅いタナで使っていたウキのまま。これは全然ダメだった。

あまりのシモリに大きめのウキに変更。全く流れない。「こんなに変わるんだあ」と驚いたが、へらっ気も全くなくなってビックリ。

へらの都合と人の都合。折り合いをどこでつけるのか。セッティングは深い。

結局、中間のサイズへもう一度ウキを交換して何とか釣れ始めたが、里ちゃんと同等のペースに持ち込むことは出来ないまま、納竿時間を迎えた。僕の初釣りは終わった。

咆哮。

お約束である釣りの後のファミレス、里ちゃんにマクラれたことなどすっかり忘れ、僕は今シーズンのセットを大胆予想。

「里ちゃんさ、今年はおカメだよ、絶対！」

「うーん、冗談抜きであるかも知れませんがね」

「でしよ？ トーナメント予選会場によく使われるところって、けっこうおカメ禁止じゃないじゃん？」

「ま、アニキ、その前に予選に出られるのが問題ですから。今年終わってみて『やっぱり釣りに行けませんでした』っていうことになるんじゃない？」

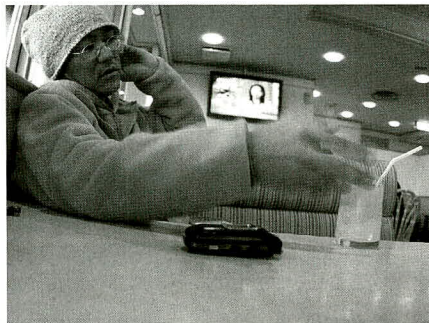
「100%は自信ないけど、多分ダイジョブ。何とかするよ」

「ホントですか？ お願いますよ？」

「任せとけて！ 今年はおカメで勝負だぜ！ チャカメチャカメ！」

「…いやいやアニキ、『浅タナセットで』にして下さい。去年のマスターズ予選での両ウドンみたいに、また変なこだわり縛られて自滅するのがオチですから…」

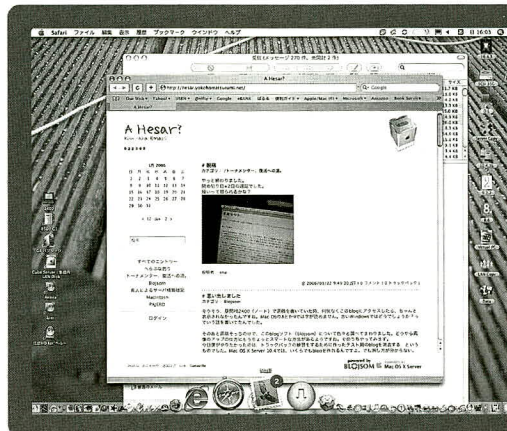
「うるへー！」



風が吹き出した後半にペースを大きく崩し、里にもマクられた江成だが、ノーガキの方は相変わらず舌好調。今年も全開でぶっ飛ばしそうなイヤな予感？

おまけ♡

「業界初、Web運動企画！」などと銘打っていたものの、しばらく江成のホームページの更新が滞っていたのは、みなさんも周知の事実。しかし、やっとやる気が出たのか、ついに復活します。みなさん、どうぞ覗いてやってくださいまし。えっ？ へら社社のホームページはどうなってるのかって？ …うーん、今しばらくお待ちを。連載ページの「ボツカット」を載せるとかって、面白いかもね！
by里ちゃん



へら鮒 3

Monthly fishing magazine herabuna

特集

仕殿様

超

段底

厳寒に負けるな。

新連載

戸張誠

関べら戦記

野釣りクラブ最高峰の戦いをリアルに追う!

2カ月連続お年玉!?

新春特大プレゼント

-7.5℃... 冬眠状態のへらを揺り起こす、驚異の21尺チャカ段底!

生井澤聡 in 富里乃堰

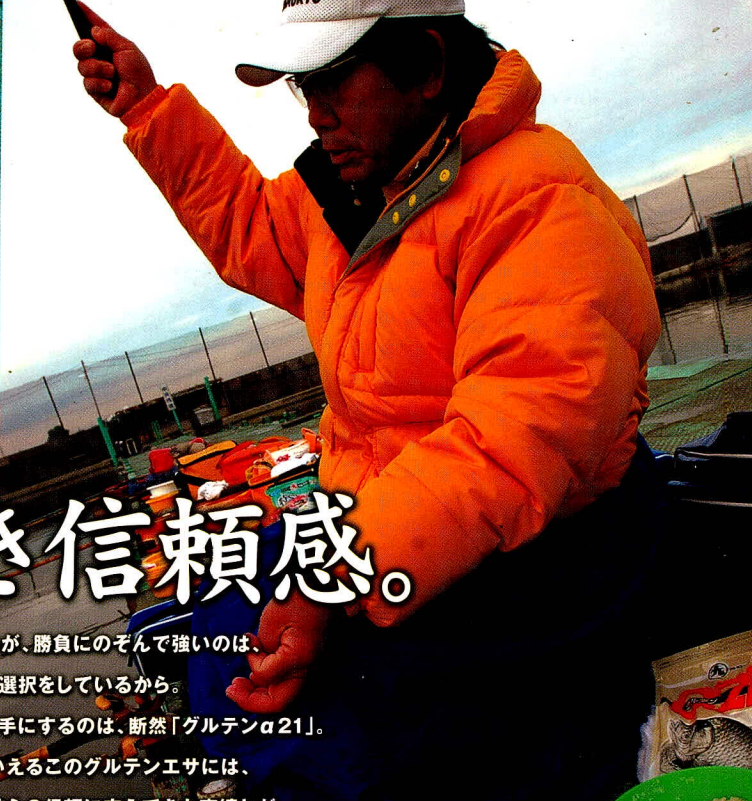
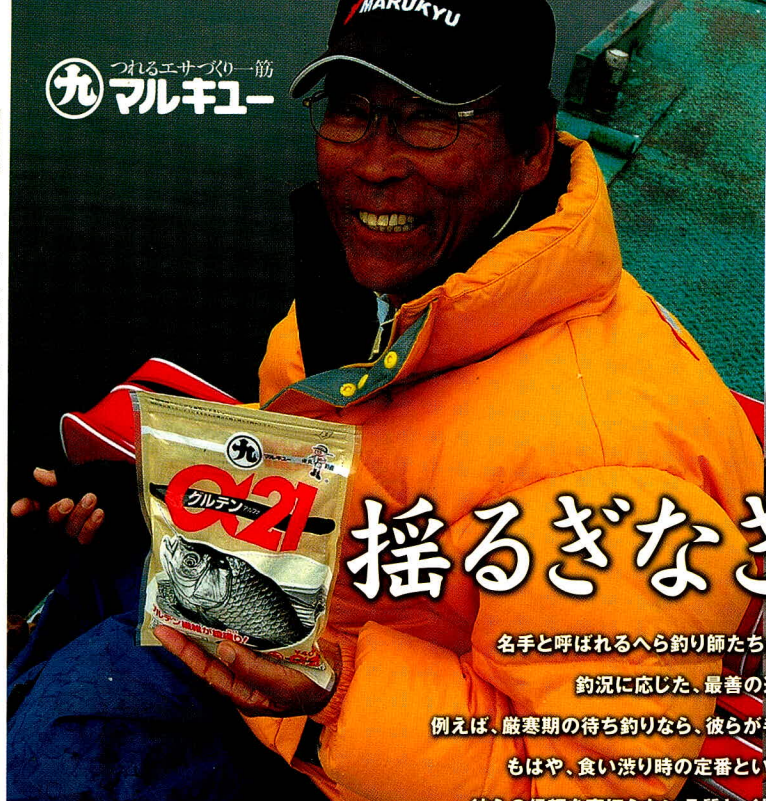
難攻不落、真冬の巨べら狩り!
“鉄壁の守り”が信じられない爆釣を...!?

内田耕一 in 筑波湖



昭和41年5月4日第3種郵便物認可
 平成18年3月1日発行
 第41巻第3号(毎月1回1日発行)

つれるエサづくり一筋
丸マルキユ



揺るぎなき信頼感。

名手と呼ばれるへら釣り師たちが、勝負にのぞんで強いのは、
 釣況に応じた、最善の選択をしているから。
 例えば、厳寒期の待ち釣りなら、彼らが手にするのは、断然「グルテンα21」。
 もはや、食い渋り時の定番といえるこのグルテンエサには、
 彼らの信頼を裏切らない品質と、彼らの信頼に添えてきた実績とが、
 この冬も、備わっているのです。



グルテン^{アルファ}α21

定価 1000円 本体九五二円

強いグルテン繊維が、ハリに残る。だから、厳寒期の待ち釣りに威力を発揮。

強いグルテン繊維が綾織り状になって、ハリの中に残るため、待ち釣りに威力を発揮。マッシュの抜けがよく、しかも軽いので、ゆっくりとタナまで届き、低活性のへら鮎でも追いやすくなっています。だから、厳寒期の食い渋り攻略に威力を発揮。発売から20年を経て、21世紀になっても、変わらずにへら釣り師の信頼に応え続けているグルテンエサです。



グルテン繊維が強いから、ハリの中に残る。だから、待てる安心感が違います。

●グルテンα21 チャック袋 250g



丸マルキユ株式会社
 〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
 合わせ 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
 ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
 iモード・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

雑誌 07907-3



4910079070360
00952